

第8章 活用

第1節 活用の方向性

ホゲット石鍋製作遺跡における活用の現状と課題を踏まえて、一層の活用を図るための方向性を下記のとおりとする。

『石鍋のまち西海』の魅力の創出

実施内容	<ul style="list-style-type: none">①本質的価値を現地で見て学べるよう史跡の早期公開②道に迷うことなく安全に見学できるような見学ルートの設定③認知度向上に向けた情報発信④地域の歴史とともにホゲット石鍋製作遺跡を知ってもらうための学びの場の提供
------	--

第2節 活用の方法

(1) 史跡の公開

ホゲット石鍋製作遺跡は、石鍋の一大生産地であった西彼杵半島の中でも、工房跡の密度、規模ともに日本最大級の石鍋製作遺跡であり、保存状態よく残されていることから、石鍋の製作過程や効率的な生産を行うための工夫などを直接見て学ぶことができる大変貴重な遺跡である。

令和3年(2021)に第6工房跡で崩落が確認され、見学者の安全を確保することが困難であったことから、史跡の公開を中止しているが、ホゲット石鍋製作遺跡の本質的価値は、実際に現地で見ること、より多くのことを学ぶことができるため、フィールドミュージアムとして史跡を公開することを目指していく。

史跡の公開の方法は、以下の2つを基本として示す。

1) 限定公開

史跡の早期公開にあたり、見学者の安全確保および遺構へのいたづら、埋蔵遺物の持ち出し等の防犯対策を行うため、ガイドの同行による限定公開とし、見学ルートの設定を行う。

限定公開は、西海市教育委員会事務局職員がガイドとして同行する現地見学会および発掘調査の現地説明会を年に数回実施するほか、認定ガイド制度を設け、石鍋や工房跡に関する一定レベルの知識を有する個人をガイドとして育成し、認定したガイドが同行する現地見学も実施していく。

2) 常時公開

情報発信等により現地見学の希望者が増加し、募集定員を超える応募が継続的に確認され、限定公開だけでは対応が難しいと判断できる場合は、社会情勢等を考慮しながら常時公開に向けた検討を行う。

(2) 見学ルートの設定

見学ルートは、既存の見学路をベースに子どもたちや体力に自信のない方向けのルート、各工房跡をしっかりと見学したい方向けの2通りのルートを設定し、崩落が起きている第6工房跡、既存の見学路外である第1工房跡、足元が悪く安全性が低い第8工房跡～第11工房跡を除いたルートとした。

地元住民や専門家の意見を取り入れながら、より良いルートを検討するとともに柔軟に変更することも視野に入れる。

また、ルートの途中で休憩ができるよう、ベンチや雨をしのげる屋根付きの休憩場所などを設置する。ベンチはホゲット石鍋製作遺跡の環境に応じた素材を検討する。

【ルート①】

子どもたちへの学習の場、生涯学習の場を想定し、第2工房跡を見学後に下山する。所要時間は往復で50分程度となっており、現在考えられる最短ルートである。

【ルート②】

体力のある大人や、方形割付の痕や坑道堀りなど、各工房跡の特徴をしっかりと見学したい方を対象とし、第2工房跡から順に第3、第4、第5、第7と巡り、第7工房跡を見学後下山。所要時間は往復で1時間30分程度となっている。



写真 8-1 休憩候補地①



写真 8-2 休憩候補地②

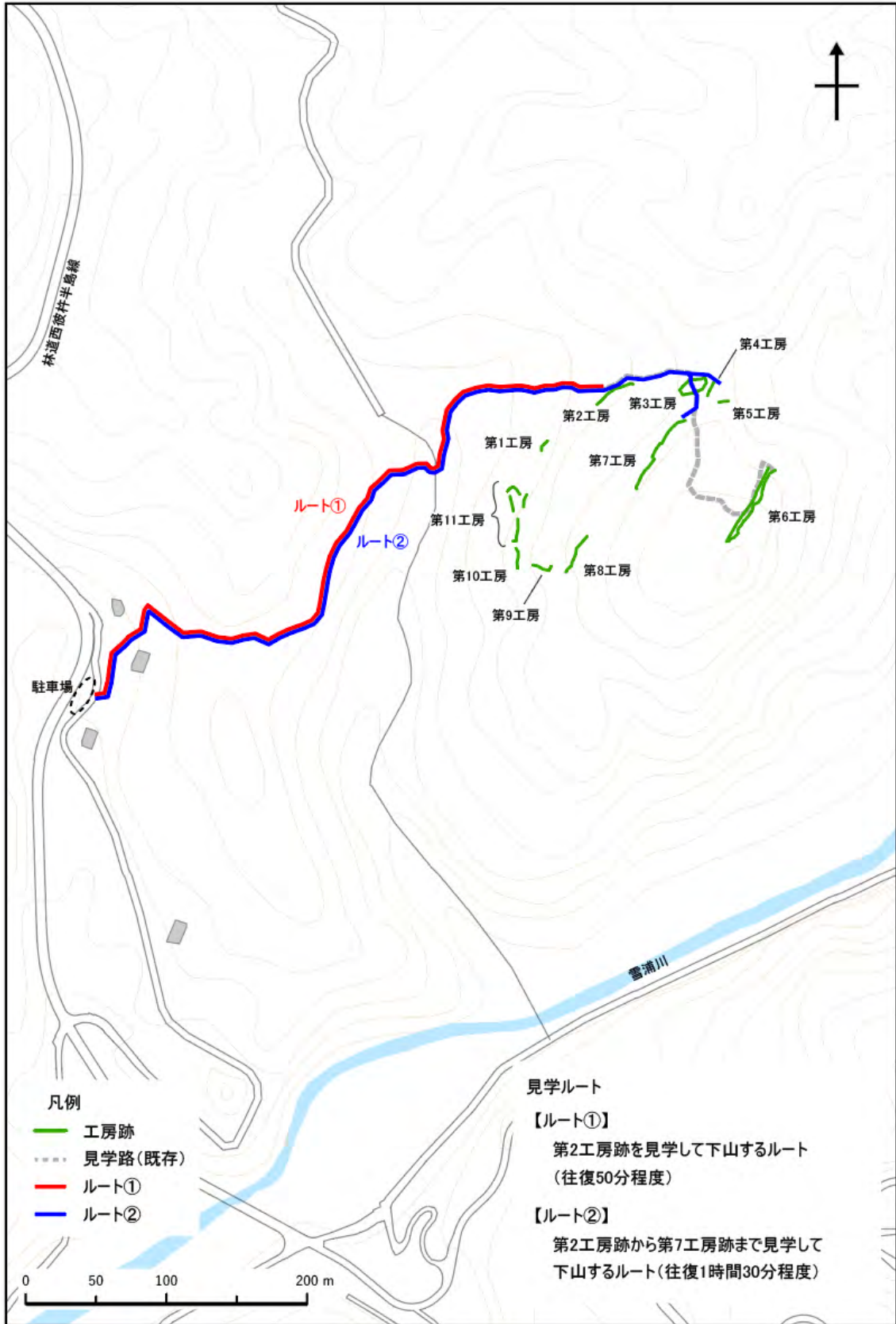


図 8 - 1 見学ルート図

(3) 情報発信

1) Web サイト・SNS を活用した広報活動

西海市の Web サイトにおいて、観光スポットの一つとしてホゲット石鍋製作遺跡の紹介ページが掲載されているが、遺跡の価値や魅力を十分に伝えきれていない。

そこで、ホゲット石鍋製作遺跡の価値や魅力を広域に伝えるため、遺跡の情報や魅力を Web サイトや SNS など発信し、石鍋やホゲット石鍋製作遺跡に関心を持つ人々の拡大に努め、遠方からでもホゲット石鍋製作遺跡を訪れたいと思わせる広報活動に取り組む。

2)パンフレット・チラシの製作

学習、交流、観光等の用途に応じて、石鍋およびホゲット石鍋製作遺跡の概要、価値、見どころを紹介したパンフレット・チラシ等を製作し、多様な史跡の活用を促進する。

また、パンフレット・チラシ等を多くの人に手に取ってもらえるよう、デザインの工夫を行うとともに、人が多く集まる公共施設および民間施設、地域の店舗等に設置することを検討する。

3)最新技術を活用したコンテンツ製作

ホゲット石鍋製作遺跡は、駐車場から 20 分ほど山道を歩いた場所に工房跡が点在しており、足元も悪いことから現地見学をためらう要因となっている。

そこで、VR 等の最新技術を用いて、現地に行かなくても実際に現地にいるような臨場感を味わえるコンテンツを製作し、多様な人々にホゲット石鍋製作遺跡の本質的価値を伝える一助とする。

4)地域の団体・民間企業と連携

『石鍋のまち西海』としてホゲット石鍋製作遺跡を地域全体で盛り上げていくため、地域の団体および民間企業と積極的に連携する。

パンフレットやチラシの設置、団体や企業よりイベントや講演会、出張展示などの依頼が行われた場合は、関係部署と協力して対応するよう努める。

(4) 学びの場の提供

1)学校教育

地域の将来を担う子どもたちへの教育を通して、地域の歴史とともにホゲット石鍋製作遺跡を地域の宝として将来につなぐ思いを育むため、小中学校や学童保育等と連携を図り、地域の歴史の一つとして学ぶ機会を創出する。

また、最新技術（AR・VR など）を活用して子どもたちの興味を惹き、理解をより深められるよう子ども向けの冊子を作成する。

2)生涯学習

市民等を対象とした西海市まちづくり出前講座やふるさと発見講座において、ホゲット石鍋製作遺跡を題材とした講演や現地学習を行い、子どもから大人までホゲット石鍋製作遺跡について学ぶ機会を設けるなど、ホゲット石鍋製作遺跡を利用した生涯学習活動を推進することで、本史跡の価値や地域の歴史への理解をより深める機会とする。

また、小学生を対象とした学習会等で石鍋をテーマにした学習を実施しており、定期的に触れて学べる体験を続けていく必要がある。



写真 8-3 石鍋製作遺跡解説の様子

3)調査研究成果の公開

市民および石鍋に関心を持つ多くの人々にホゲット石鍋製作遺跡の最新の調査研究成果を広く伝えるため、発掘調査の現地説明会を実施するほか、市報やWebサイト等で公開する。

また、最新の調査研究成果を踏まえ、講座や研修会、Webサイト、パンフレットの内容を更新するとともに、大瀬戸歴史民俗資料館の展示の更新、大瀬戸町内での企画展の開催などを検討する。

4)ガイドの育成

史跡の限定公開に向けて、周辺地域の方やホゲット石鍋製作遺跡に興味がある方を募り、地域の歴史や石鍋およびホゲット石鍋製作遺跡等の解説に必要な知識を身に着けるための研修会を定期的で開催し、ガイドとして育成する。

また、ガイドとして認定するための基準を検討し、認定ガイドによる現地見学会の開催を目指す。